



研究テーマ 気付き 感じ 考え 認め合って遊ぶ子供
 ～直接体験、感動体験を通して幼児の学びを育む環境の構成、再構成の在り方を探る～



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目のうち特に子供を捉える項目

道徳性・規範意識の芽生え

自然との関わり・生命尊重



★成果★

＊1年次の取り組みより＊

★課題★

- 信頼関係や自尊感情が基盤になり、幼児が主体的に環境に関わって友達と遊ぶ中で「思いやり」の心が育まれることが分かった。
- 「思いやり」の心を育むためには、教師や友達との共感、伝え合い、分かり合うことができるよう支えていくことが大切であると分かった。

- 継続した環境の構成、再構成を行い、好きな遊びの充実を図る。
- 幼児の学びと教師の援助について、さらに丁寧に読み取っていく。
- 5歳児の学びを具体的にし、小学校教育との繋がりについて考えていく。

環境の構成、再構成を見直し、好きな遊びの充実を図る

＊2年次研究のねらい・研究方法＊



小学校教育との繋がりを考える

学びを丁寧に捉える

- 遊びのきっかけとなる環境づくりを意識する。
- 学びを生み出す環境を改めて見直す。
- コロナ禍の中、安全面、衛生面から環境を見直す。

- 学びを可視化し、教師の援助の在り方を捉えるために、記録のフォーマットを作る。
- 記録から捉えた学びや学びの要因を園内研究会により話し合い、子供の育ちを捉える。

- 5歳児の学びを整理し、小学校の学習指導要領（道徳等）との繋がりを捉える。

＊実践内容＊

環境の構成を見直し、好きな遊びの充実を図る

年齢	環境の構成・援助	子供の事実	子供の学び	学びの要因・要素
3歳	小さいソフト積み木を大きいものに替え、きれいに積んで並べて置いておく。	舞台にして登るなどダイナミックに遊んでいる。 元の通り揃えて片付けようとしている。	登れるのが楽しい。大きいのが嬉しい。 四角く並べようと数、大きさ、形を考えている。	家にはない大きさが魅力的である。 安定した大きさである。 いろいろな形、大きさの積み木がある。揃えるという要素。
5歳	園庭倉庫の道具を見やすく、取り出しやすく並べておく。	竹馬のコース作りを子供同士で考え、道具を自分たちで工夫して組み立てている。	自由に出して使えるのが嬉しく、より楽しいコースを作るといった目的がある。	竹馬は挑戦する意欲がもてる遊びである。 用具が魅力的である。 自由に使える。



＊幼児の学びの分析＊

学びと学びの要因を丁寧に捉える

年齢	環境構成・援助	子供の事実	子供の学び	学びの要因・要素
3歳	自転車の交代を楽しく待てるようにベンチを駅に見立てて置く。	ベンチ（駅）にいと、自転車を交代することができている。交代することで笑顔になっている。	駅で待つ、駅に止まることをイメージして自転車を交代することが楽しい。 自転車の貸し借りの優しさが心地よいと感じている。	駅があるという環境があることでごっこ遊びのイメージをもつことができ、楽しくなったこと。 自分も代わってもらった嬉しさの経験。
4歳	子供同士で気付けるよう見守り、考え合う時間の保障をする。	サッカーで手を使うことを止めずにいると、友達が遊びから抜けてしまった。	ルールを守らないと、友達がなくなる。 一緒に楽しく遊ぶためにはルールを守らないといけないと分かる。	サッカーを友達と一緒にしたいという意欲があったこと。 友達の存在が4歳児には大きかったこと。
5歳	自分たちで目標に向かって考える姿を見守り、解決できるまで時間を保障する。	しっぽのりのルールの行き違いからトラブルになり、皆で集まって意見を伝え合っている。	どうすれば解決できるか、目的を共有している。友達の個性を理解し、言葉を選んで話し合いを進めている。	クラスやチームの仲間としての意識や運動会のしっぽのりの競技に対する目的意識がある。 しっぽのりが大好きであるという思いがある。



「駅で順番を待とう」



3歳児：順番交代をする

「交代しよう」「ありがとう」



4歳児：友達と楽しく遊ぶにはルールを守ることが大切と分かる



「他の子がお話できないよ」

5歳児：問題を解決したいという共通の目的をもって、友達の個性を理解しながら話し合いを進めようすることができる



「勝負だ！負けないぞ！」

自然との関わり



「きれいな水にしてあげよう」「カメさんの甲羅もあらってあげよう」

カメのことを考え、自ら世話をする

幼稚園の学びは、よりその育ちが具体的に捉えられており、それらは1年生の学習指導要領にしっかりつながっている

小学校学習指導要領 道徳1・2年生より

- ☆身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること
- ☆よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと
- ☆約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること

4歳児：進んで片付けを行う



「2人で持てば軽い軽い！」

＊成果と課題＊

➤ 成果

- 3歳児は、ごっこ遊びなど楽しいイメージがもてるように環境を整え、4歳児は友達と遊びたいという思いをもち、友達とのかかわりの中で気付こうとする姿を見守り、5歳児は、クラスやチームなどの集団で目的を共有し解決しようとする活動を支えるなど、遊びが充実する中で、子供達は道徳性を身に付けていくことが分かった。教師は、子供が遊びを基盤に学んでいく過程をしっかりと捉え、遊びが楽しくなるための環境を工夫し、発達や一人一人に応じた丁寧な援助をしていくことが大切である。

➤ 課題

- 遊びを充実させるための環境を継続的に工夫し、そこでの子供の学びとその要因を捉えていく力をつけていく。